

# 難治がんに対する重粒子線治療を基軸とした集学的治療の臨床研究推進並びに診療参加型臨床実習の充実

## 事業概要

国民およそ2人に1人ががんに罹患する本邦において、有効ながんの治療法の開発は依然として急務である。がんの治療の中でも、本学では重粒子線を用いた放射線治療を含む集学的治療に重点的に取り組んできたが、昨今、主に若手医師が研究に割く時間が制限され、医師の研究能力の低下・大学の臨床研究能力の低下が危惧されている。そこで本事業では、**研究支援者・教育支援者の配置、大学院生のTA・RA制度の拡充**などを通じて、将来の研究医育成を視野に入れた**医学部生の臨床能力とリサーチマインドの涵養、若手医師の研究環境の改善**を図り、本学の重粒子線を用いた集学的がん治療の臨床・臨床研究・医学教育の体制の強化を目指す。あわせて、実技教育のための機器整備と**タスクシェアを意識した指導者の配置**及び患者さんからの臨床実習同意取得率上昇のための動画資料や双方向的配信システムの構築を行い、**臨床実習の充実と学生の医行為経験率の上昇**を目指す。

## 教育研究支援者業務内容

- 研究支援者**
- ・重粒子線医学研究センターにて実験の支援、TA・RAの指導
  - ・先端医療開発センターにてデータ収集・解析支援
- 教育支援者**
- ・診療参加型臨床実習にて医行為の指導
  - ・患者支援センターにて臨床実習同意書の説明対応
- TA**
- ・重粒子線医学研究センターで行われるシミュレーター実習の補助
  - ・シミュレーターを用いた医行為実施前技能教育の補助
- RA**
- ・重粒子線医学研究センターにて臨床研究に参画、研究補助
  - ・先端医療開発センターにてデータ収集・解析支援の補助

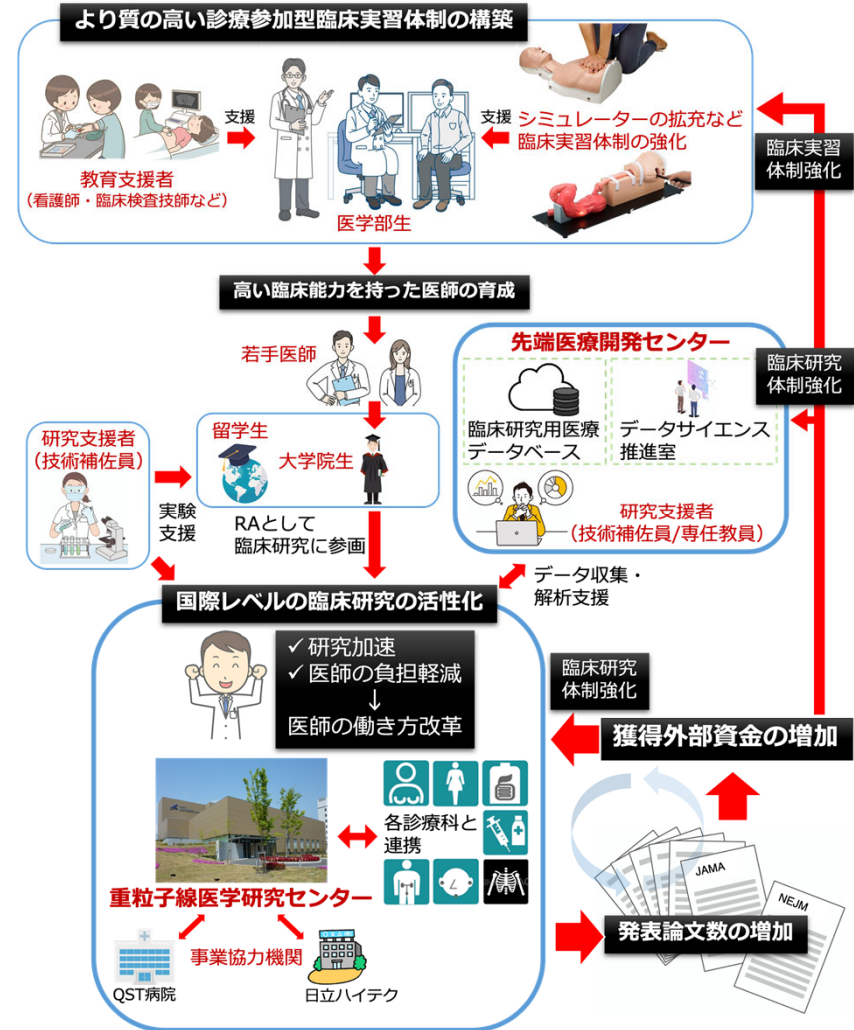
## アウトカム

### (臨床研究)

- ◇臨床研究支援件数の増加
- ◇先端医療開発センターで支援する臨床研究数：5件/年の増加を目指す
- ◆臨床研究論文数の維持・増加
- 事業最終年度にがん領域で50編/年増加を目指す
- (大学院生あたり4年で2報の筆頭論文を目指す)
- ◆研究支援者を配置する研究室・診療科等の医師の教育研究時間の維持・増加
- 腫瘍放射線学の社会人大学院生では週5時間増を目指す
- ◆医学系大学院生の維持・増加
- 腫瘍放射線学では現状維持(2-3人/年)を目指す
- (診療参加型臨床実習)**
- ◆門田レポートで医学生が実施すべきとされている医行為の経験率の上昇
  - ・注射(皮下・皮内・筋肉・静脈内) 90%
  - ・微生物学的検査(G染色含む)の経験率 全学生の100%
  - ・末梢血塗抹標本の作成と観察 全学生の100%
  - ・学生の平均医行為経験率 全医行為の70%(50種類中35種類)
- ◇臨床実習への患者同意取得率の上昇
  - ・見学型及び診療参加型への同意取得率 90%、診療参加型への同意取得 70%

## 事業の継続・将来像

「臨床研究用医療データベース」を活用し、先端医療開発センターの中に**データサイエンス推進室**を置き、研究のアイデアを実現するためのデータ解析を支援する専任および兼任の職員を配置し、臨床研究の促進を図る。  
医学部・医学部附属病院の論文数の増加に貢献、外部資金の獲得増加につなげ、本体制を維持する。



事業体制図

(総括)	
医学部長・医学系研究科長 (事業総括責任者)	医学系研究科長補佐 (副事業総括責任者)
医学部附属病院長 (副事業総括責任者)	
<b>【特色ある臨床研究】</b>	<b>【診療参加型臨床実習】</b>
重粒子線医学研究センター長 (責任者)	医学教育開発学分野教授 (責任者)
重粒子線医学研究センター 医学部門教授	患者支援センター長
物理学部門教授、生物学部門教授	医学系研究科教務部会長
先端医療開発センター長	検査部長
QST病院	医療の質・安全管理部長
株式会社日立ハイテク	スキルラボセンター